

第32回日本小児泌尿器科学会総会・学術集会を開催して

杉多 良文

第32回日本小児泌尿器科学会総会・学術集会会長
兵庫県立こども病院泌尿器科部長

この度、第32回日本小児泌尿器科学会総会・学術集会を2023年7月19日(水)～21日(金)に神戸国際会議場で開催させていただきました(写真①)。神戸市での開催は、第2回(1993年)生駒文彦会長、第12回(2003年)谷風三郎会長、第16回(2007年)島博基会長以来16年ぶりの4回目です。梅雨時期ですので、天候を心配しておりましたが、幸い会期中に梅雨明けとなりました。

理事会では、第8代理事長 林 祐太郎先生(名古屋市立大学)から第9代理事長 野口 満先生(佐賀大学)へのバトンタッチがありました(②)。林先生は理事長として学会のために、まさに滅私奉公された2年間でした。お疲れ様でした。

ご参加くださる方々への感謝の気持ちを込めて、私がコングレスバッグをデザインいたしました(③)。また、私にとって思い出深い三ノ宮のBar「Take 5」(今は閉店)でclosingに流れる「Take 5」を幕間のBGMとさせていただきました。

現地参加のみの学術集会としては多くの方々にご参加いただき、演題は157題ご応募いただきました。学術委員会・理事会で選ばれた13演題は口演で学会賞を争っていただき、残りの144演題はすべてポス



① 第32回日本小児泌尿器科学会総会・学術集会ポスター

ター発表とさせていただきました。

「Curiosity 感興, Passion 情熱, Perseverance 不屈, Gratitude 感謝」という学術集会のテーマに沿って、シンポジウム、ワークショップ、招請講演、ディベート、特別企画などを構成させていただきました。また、歴代の3人の理事長が座長をされ、学術委員会(停留精巣診療ガイドラインの改訂)・専門医委員会(新しい専門医制度)・倫理委員会(演題応募時の倫理規定)からJSPU理事会報告をしていただきました。

海外招請講演として、Iowa大学のChristopher S. Cooper教授に、新生児水腎症の予後に関する新しい



② 第8代理事長 林 祐太郎先生, 第9代理事長 野口 満先生



③ コングレスバッグとスタッフが着用したリストバンド



④ Cooper教授, 谷風三郎先生(写真右), 筆者



⑤ スタッフ集合写真 (会員懇親会直後)

分類と膀胱尿管逆流の国際分類の問題点および膀胱尿管逆流の予後に関する指標に関して、ご講演を賜りました(④)。また、文化人講演の“元気配達人”パンチ佐藤氏には元気が出る言葉，“Dynamite!!”を教えてくださいました。

会員懇親会は『JSPU 2023 だよ！全員におみやをお配りし夜(ナイト)』と銘打ち、当院手術室ナースのバブリーダンス、豪華(?)抽選会のあと、スタッフがマツケンサンバを踊りながら、おみやをお配りし、最後は出席者全員で輪になり、マツケンサンバを踊りました(⑤)。

学術集会唯一の感謝企画は、谷風三郎先生の特別講演『小児泌尿器科 今当たり前のことが当たり前でなかった時代』で、1980年代の小児泌尿器科の現状、手術成績向上のために米国に見学に行かれたこと、また海外の小児泌尿器科医が訪日され(なんと23

名!)、交友を深められたことなどをお話しいただきました。

私の予想をはるかに超える活発かつ有意義な意見交換が行われ、盛会のうちに終了することができました(⑥)。特に、COVID-19の流行以降、4年ぶりに会員懇親会を催した現地参加のみの学術集会でしたので、皆様、今までの鬱憤を晴らしておられたのではないかと存じます。ご参加いただいた方々に心より御礼申し上げます。会期終了後には8月の1カ月間、オンデマンド配信し、学術集会の興奮をリマインドさせていただきました。

次回第33回日本小児泌尿器科学会総会・学術集会は、矢内俊裕先生(茨城県立こども病院小児外科、小児泌尿器科)が会長をされ、茨城県水戸市民会館で2024年7月24~26日に開催されます。衷心より盛会を祈念いたしております。



第32回日本小児泌尿器科学会総会・学術集会 "Curiosity, Passion, Perseverance, and Gratitude"



⑥ スタッフ集合写真 (学術集会終了時)